

## 柔道整復科

## 施術概論 3

対象	3年次	開講期	前期	区分	必	種別	講義	時間数	30	単位	2	
担当教員	奈良和彦			実務経験	有	職種	医師（病院にて勤務）					

## 授業概要

部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学ぶ。

## 到達目標

診察では、患者の訴える自覚症状（愁訴）を聴取することから始まり、患者の身体に現れている異常な他覚的所見（徵候）を眼でみたり、手で触ったりして観察する。ついで、診察を通じて患者の異常状態なり病名を判断する。この行為を診断という。診察から診断について学ぶことで柔道整復師本来の業務範囲に活用できることが目標である。

## 授業方法

教科書を中心として授業を進める。医療従事者は症状・診断法・注意すべき顔貌や愁訴など、いくつかの疾患を念頭に置きながら、それらのなかからその患者に最も妥当と考えられる疾患名を判定できる能力を必要とされる。柔道整復師として臨床現場においても求められる鑑別診断の知識を、内科学を学ぶことで育成する。

## 成績評価方法

試験・課題等を総合的に評価する。

## 履修上の注意

国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。

## 教科書教材

教科書は「一般臨床医学解剖学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。

回数	授業計画
第1回	呼吸器疾患①（肺感染症・呼吸器機能障害・肺循環障害）
第2回	呼吸器疾患②（肺腫瘍・変形および形成障害・肺虚脱・胸膜疾患）
第3回	循環器疾患①（先天性・後天性・虚血性・うつ血性各心疾患）

第4回	循環器疾患②（不整脈）
第5回	循環器疾患③（血圧異常や動脈・静脈疾患）
第6回	神経・筋疾患①（脳血管障害）
第7回	神経・筋疾患②（脳・脊髄損傷）
第8回	7回までの振り返りと確認演習
第9回	神経・筋疾患③（感染性疾患）
第10回	神経・筋疾患④（認知症）
第11回	神経・筋疾患⑤（基底核変性疾患）
第12回	消化器疾患①（総論ならびに食道疾患）
第13回	消化器疾患②（胃疾患ならびに腸疾患）
第14回	13回までの振り返りと確認演習
第15回	まとめ